

# 総務文教委員会記録

令和2年8月4日（火）  
09時59分～11時32分  
全員協議会室

【委員】 西村委員長、芦谷副委員長  
三浦委員、西川委員、上野委員、永見委員、西田委員、牛尾委員

【委員外】 小川議員

【議長団】

【総務文教委員会 所管管理職】

（総務部） 坂田総務部長、佐々木総務課長、河内財政課長、  
（地域政策部） 岡田地域政策部長、邊地域政策部副部長（まちづくり推進課長）、  
川合定住関係人口推進課長、  
（教育委員会） 石本教育長、河上教育部長、市原学校教育課長、濱見文化振興課長

【事務局】 下間書記

---

【議題】

1 執行部報告事項

- (1) 令和元年度健全化判断比率・資金不足比率（速報値）について 【財政課】
- (2) 浜田応援団の組織化について 【定住関係人口推進課】
- (3) 関係人口創出・拡大のための中間支援組織の提案型モデル事業について 【定住関係人口推進課】
- (4) 浜田市まちづくり総合交付金制度改正検討委員会について 【まちづくり推進課】
- (5) 令和2年度運動会及び学習発表会等日程について 【学校教育課】
- (6) 歴史文化保存展示施設専門検討委員会の設置について 【文化振興課】
- (7) その他

2 その他

【議事の経過】

[ 09 時 59 分 開議 ]

西村委員長

ただ今から総務文教委員会を開会する。出席委員は8名で定足数に達している。

本日の委員会は、新型コロナウイルス感染症感染防止の観点から、執行部の出席者は、議題に関係のある部課長のみとなっている。

また、事前にお伝えしているとおり、執行部報告事項については補足説明としている。質疑・答弁については簡潔明瞭に願います。

それでは、レジュメにそって進める。

1. 執行部報告事項

(1) 令和元年度健全化判断比率・資金不足比率（速報値）について

西村委員長

執行部から補足説明はあるか。

財政課長

速報値を報告する。また、監査委員の審査を受けた結果を9月定例会議で報告事項として報告する予定となっている。

（以下、資料をもとに説明）

1点目の健全化判断比率について、算定結果が出ているのは実質公債費比率と将来負担比率の2つの比率。実質公債費比率については3か年平均値として算定されるが、算定結果は10.9%。昨年度、平成30年度は10.5%だったので0.4%の悪化である。悪化の要因は分母に計上される地方交付税が合併算定替加算額が徐々に減少しており、その減少に伴うものである。分子に計上される元利償還金についてはここ数年、増加傾向にあり、分母は減少、分子は増加というところで悪化に転じている。このような状況であるが、早期健全化基準の25.0%、地方債発行の際に許可が必要となる18%の数値を下回る数値である。昨年度策定の中期財政計画においては、11.0%を見込んでいたので、こちらも数値を下回る結果となっている。将来負担比率については、算定結果が54.6%で、昨年より4.9%の改善となっている。裏面にはそれぞれの比率の推移を掲載している。

西村委員長

委員から質疑はあるか。

西川委員

実質公債費比率について、単年度では昨年度から0.9ポイント上がっているが、中期財政計画では令和5年度まで12.数%まで上がる予定になっている。5.4%くらいが全国平均である。上がっている基本的な考え方を聞きたい。

財政課長

確かに全国平均より高くなっている。全国と比べられる最新数値は平成30年度決算の数値なのだが、浜田市は、実質公債費比率が昨年度10.5%で、全国の市町村1,741団体中1,367位である。全国の都市、815団体中の635位。類似団体いわゆる似通った人口規模と産業構造の団体が85団体あるが、そのうちの71位。いずれも下から数えたほうが早いという順位である。

中期財政計画でもお示したように、令和4、5年度で12.9%が一番高い。早期健全化基準の25.0%や、地方債発行に島根県の許可が必要となる18.0%と比べると下回っている。低いに越したことはないが、ある程度のサ

- ービスをしつつバランスを見ながら財政運営に努めている。
- 西川委員 基本的な考え方は、早期健全化基準に達していないのでそれほど悪化しない。他市や全国平均と比較はせず、それを基準にやっていくということか。全国よりだいぶ高いので、できるだけ、何があるか分からないので、なるべく注意したほうが良い。
- 牛尾委員 平成20年のワースト5位に比べたら、よくここまで回復したと思っている。その上で、地元新聞も先般、書いていたが、ウイルス対策で内部留保のある市は政策が打てる、ないところはできないとあった。そういった数値の比較検討の中で、内部留保を持っているため財政破綻をしないと読み取れるような数字を、こういう指標とは別に出すと皆安心されるのではないか。新聞はこの数値を掲載する。これだけだと不安をあおりかねない。これがオーソドックスな数字の出し方ではあると思うが。検討してみしてほしい。
- 財政課長 ご意見感謝する。確かに健全化判断比率のみ公表しているのですが、今後への不安を抱かれるかもしれない。その辺は12月にお示しする中期財政計画で、比率はこう、それに対して基金はこう、と示して財政運営は持続可能であり、担保されることを含めて説明したい。この数値だけ見ると確かに不安な面があるが、これについては速報値としてお示しし、具体的なことは中期財政計画でお示しする。
- 牛尾委員 速報値で荒っぽい数字は出せないものか。市民は心配している。議員定数アンケートでも、お金がない、浜田市は財政的に厳しいから議員を減らせという声が多い。そういうことからすると、内部留保も速報値が出せれば市民の誤解を払拭できるのではないか。担当課は普段の業務でそこまで考える必要はないのかもしれないが、議員は市民の生の声を聞いている。ご配慮をお願いしたい。
- 西村委員長 コロナ対策の関係で、7月臨時会議で可決した補正5号までのところで、いくら、ふるさと応援基金が財源として使われたのか教えていただきたい。また、いずれにせよ3、4億円程度だと思っているので、金額的に非常に大きくなってくる。おそらく昨年いただいた中期財政計画にも大きな影響を及ぼすかと思う。また現時点で、その対策費がどの形でどの程度出ていくか判断できない状況かとは思いますが。ただいずれにしても、現時点で3億円を超えるような額が見積もられていると思うので、財政計画に与える影響も大きいと感じている。その辺、財政課としてどのように考えているか。
- 財政課長 主要事業の、ここに入れるのはどうかと思うが、ただ、金額が大きいので、コロナ対策ということでこれに書き込む形にしないと、ぱっと見て分からないのではないかと。お考えがあれば聞きたい。
- まず、コロナ対策の補正予算でふるさと応援基金をどれだけ取り崩す予定かだが、5号補正までのところで2億6,000万円程度の取り崩しになる。国から臨時交付金がいただけるのが大きい。今後追加が出れば数字は変わってくる。
- 中期財政計画については、現在、サマーレビューを随時やって計画のローリングを行っている。コロナの感染収束に向けての先行きが分からないので、今年度ではとても終わらないのではと不安に思っている。対策

として継続するのであれば、中期財政計画の中で物件費や扶助費などの費目でその辺の項目を加えて推計しないといけないかと思っている。主要事業というよりは、費目の説明を加えたほうが良いのかと今は考えている。

西村委員長

他に質疑はあるか。

( 「なし」という声あり )

**(2) 浜田応援団の組織化について**

西村委員長

執行部から補足説明はあるか。

定住関係人口推進課長

( 以下、資料をもとに説明 )

募集については、市人会等を通じて、配布する。8月17日から申込みの受付を開始する。

委員から質疑はあるか。

西川委員

事業としては今年度新規の関係人口創出拡大事業の中の1つだと思う。今はステップ1の段階だが、段階2以降はコロナ関係で制限されるだろう。見通しはどうなっているか。

定住関係人口推進課長

ステップ2以降の実施には不安を持っている。市人会もコロナ対策で總會等が中止になっている。このため働きかけの機会を失った。また、都会地から浜田に来ていただく際の感染拡大についても懸念している。慎重に実施する必要がある。

この後に説明するが、内閣府の事業に、民間会社が浜田市をフィールドとしてそういった活動を実施されることが採択されているので、浜田市単独ではなく、こういった団体と一緒にリモートでやっていく方法もあるかと思う。

西川委員

2枚目のパンフレットを見ると、応援活動、スキルの協力など、ハードルが高そうに見える。具体的にどんなニーズとどんな応援、イメージを聞きたい。

定住関係人口推進課長

町内組織、支所、民間で地域活動を行っている団体にヒアリングをしている。地域のニーズの一例としては、認知度・知名度が低いので都会地へのPRを手伝っていただきたい。新商品開発、観光協会からは都会地の方のアンケート調査、新商品のモニター調査の手伝い等。これらについては浜田に直接来ていただかなくても、都市圏にいながらにして協力いただけると考えている。

草刈り問題が多くあって、そういうところにマンパワーをお借りしたいという声がある。

西川委員

草刈りは出るだろうと思っていた。大変かと思うが、このチラシに対する意見だが、「誰かの役に立ちたい」というのは弱い。「ふるさとの役に立ちたい」が良いのではと思った。マンパワーのところの「首都圏」については東京周辺だけのイメージで大阪や広島はターゲットになっていないのか。

定住関係人口推進課長

ご指摘のとおりなので、首都圏ではなく都市圏と改めたいと思う。

西村委員長

これは修正が可能なのか。

定住関係人口推進課長

すでに印刷業者に発注しているので、早急に確認する。

三浦委員

示されたQRコードからアクセスしてみた。応援できる項目が挙がって

いるが、これは有償も含むのか。無償のみか。

定住関係人口推進課長 原則、無償でお願いすることになっている。費用がかかる場合、例えば、モニター調査をする時の商品代や送料等は依頼する企業に負担をお願いしたい。

三浦委員 こちらに来ていただくとなると、あるいは何か作業、ウェブサイトを作る時に、例えばサーバーレンタル費用等は別途だと思うが、実費は発生する場合は負担してもらおうが、労力は無償で提供してもらおうということか。

定住関係人口推進課長 おっしゃるとおり。

三浦委員 これは浜田市外に住んでいることが条件になっている。最近、コロナの影響もあるのだろうが、関係人口の考え方に変化が出ている。対面で、直接会ってのコミュニケーションをどう取るか。近隣の狭い地域の関係の密を高める考え方も出ている。どうしてこういう事業が必要かという、地域活動ができていない、草刈りとか、人手を外にもお願いしようという話だったと思う。それは地域の中、もっと近くの人にもお願いしても、最終的に活動が生まれることが必要であると思う。これはあくまでも市外への発信であって、市内は別途、こういう形で働きかけをするすみ分けがあるならお示しいただきたい。その辺の考え方についてどう思われているか聞きたい。

定住関係人口推進課長 市内の方については、今、具体的に働きかけのイメージは持ってない。浜田応援団自体は、市外にお住まいの方の組織化ということで考えている。ただ、一例でいうと、県立大学の学生や金城や弥栄で活動してもらったり、それらはある意味、関係人口だと思っている。そういう活動も引き続き行いながら、市外の方が地域の活動をしてくれることを市民に知ってもらい、市内での盛り上がりの一助になればと思っている。市内への情報発信や声掛け等で活動を促したい。

三浦委員 定住関係人口推進課ができた当初に、こういう状況になって、関係の作り方は変わっていくものだと思う。考え方を柔軟にとらえて、当初の概念にとらわれることなく、たくさんの方と関係が結ばれることを念頭に置きながら、柔軟に事業づくりしてもらいたい。

資料に、浜田応援団イメージとある。浜田応援団を仮に市外の方々と置くと、この方たちの何を可視化しなければならないかということ、関わり方である。この方々に示さないといけないのが関わりしろ、つまり地域住民や地元企業のニーズの可視化が関わりしろだと思う。ニーズを拾う、どういう関わり方ができるかを示さないマッチングはうまくいかない。どういう情報の出し方をするかはこれから検討されるのだろうが、見える化の情報の整理をすると、より分りやすいかと思う。

西田委員 浜田を応援したいと思われる方々で、浜田出身の市人会の方は応援したいと思っておられると思う。それ以外の方、浜田市出身ではなく、浜田市に関わりのない都市圏の方々に、浜田を応援したいと思わせるものは何か。

定住関係人口推進課長 非常に難しい。浜田出身でない方、浜田に今まで関わりのなかった方に、浜田を応援したいと思ってもらうのは接触が難しい。まずは浜田出身の方や、これまでにご縁のある方を中心として関係人口へ取り組むことと

- 地域政策部長 したい。
- まず関係人口の解釈だが、たまたま今回は市外在住者としたが、実際に市内の方でも中山間地に行って応援するというのも関係人口である。ご縁はなくても浜田のためにこれから関わりを持ちたい方は応援団の予備軍だと思う。それを関係人口だと捉えると元気になっていくのだろう。そこで、浜田に関わりのない方にどう浜田に目を向けてもらうかということだが、特に都会地の方はふるさとを持たない方が多い。浜田の自然や人の温かさなど、魅力をどう発信していくか。ホームページ等で発信するだけでなく、都市部の関係機関と連携しながら、丁寧に届けることが大切だと思う。
- 西田委員 行政側から考えるに、浜田と関わりを持たれた方々に対してはそうなのだろうが、やはり市民にも、誰も知らない都市部にいっぱい関係を持っている人がいる。市内在住者と関わりを持ったり、活動をしたりで、浜田住民との関係が、1人1人の関係人口拡大につながっていく。行政だけなど、一部で考えるのではなく、関係人口拡大は浜田市民総出で啓発していくことが大事ではないかと思うがいかがか。
- 定住関係人口推進課長 貴重なご意見に感謝する。行政の力だけでは不十分なので、議員の方、市民の方に協力いただきたい。また、関係人口の意味合いについても啓発に努めたい。
- 牛尾委員 草刈りの話が出たのでびっくりした。都市圏から飛行機に乗って草刈りに来る人がいるのか。この事業は、田舎体験をどのように魅力あるものにするかの呼びかけがないと、市外から人は来ないのでは。平成15年の豊かな海づくり大会の時に座学をたくさんやったが、マイ干物という地元の漁師と一緒に干物を作るようなことをしたが、企画はとても評判が良かった。浜田で良い体験ができることがメニューで見えてこない、浜田を応援するのに夢がない。夢を見せてもらうような結びつき、食との結びつきなどと併せて発信しないと伝わらないのではないか。スキルの問題にしても、すみ分けはどうするのか。非常に良いことだが、総務部と産業経済部とのバッティングをどうするのか。もっとわくわくするものを期待していたのがっかりした。このようなもので人が来るのか、というのが率直な感想である。
- 定住関係人口推進課長 貴重なご意見感謝する。期待に沿えず大変申し訳ない。具体的な応援活動については、今後、ニーズと応援メニューを地域の方と一緒に組み合わせる中で、魅力的なもの、手伝ってよかったと思ってもらえるものにしていきたい。
- 永見委員 チラシをいま作っておられると説明されたが、どの程度作ろうとしているか。チラシの配布自体はどのようにするのか。
- 定住関係人口推進課長 チラシについては2千枚印刷予定。配布方法については、各市人会にお願いして、会員にお配りしたい。島根県が関係人口組織化の制度を設けている。ふるさとメールを山陰中央新報社にお願いして配信している。そういうものを使ってお知らせしていきたい。
- 永見委員 チラシは、東京、大阪に県事務所がある。また、ふるさと島根定住財団に配布して、相談に来られた方に配布する考えである。
- 永見委員 東京や大阪にも配布されるということで理解した。

上野委員	田舎体験ということだが、浜田はずいぶん前から田舎ツーリズム協議会の方がいるが、連携は考えているか。
定住関係人口推進課長	田舎ツーリズムの方と直接接触过していないが、市外といろいろ連携が必要だと思うので、今後ヒアリングしたい。
上野委員	全国からずいぶん多くの方が来られている。主に子どもが多い。昔、来たことを思い出してまた来てもらえるように、ぜひ連携してほしい。
地域政策部長	今回の事業は、関係人口といっても、どういう人がいてどういうところに情報を伝えていくかが分からない状況の中、今回特に浜田にご縁のある出身者会等を通じてネットワークを確認する作業になると思う。登録者が増えてくれば、そこからのネットワークで人のつながりは少しずつ増えていく。そうした時につながったメールやSNSに、浜田が今、取り組んでいるツーリズム協議会の田舎体験事業等も紹介して、相手に情報を届けることで更に交流が深まっていくこともあろうかと思う。一足飛びに情報を届けるといっても相手がまだ見えない中で、これを機に、更に取組を深掘りできるのではと考えている。
牛尾委員	部長が言われたから言うが、相手が見えないから、こちらから一定の姿を見せるのが普通ではないか。結果が出ても出なくても良いからやる、という荒っぽい話に聞こえる。それは違うのではないか。新規事業なので、そういう姿勢でやったらこの事業は上手くいかないのではないか。
地域政策部長	いろいろな考えがあろうと思う。どういうことで地域が困っているか、どういう貢献がしたいか、それを上手く結びつけるきっかけであり、サポーターを募っていく。そのためにどのような情報を発信してつなげるかは配慮しなければならない。ご指摘いただいたことは対応していきたい。
芦谷副委員長	ただ、関係人口を作って今回がスタートなので、そこから広げていく思いがあることはご理解いただきたい。
定住関係人口推進課長	市人会、遣島使、ふるさと納税者、ふるさとメール会員の動きが分かれば聞きたい。
芦谷副委員長	正確な数字は今は持っていない。
定住関係人口推進課長	そこをしっかりと押さえて、その数字がどうなっているか。ふるさと納税のリピーターがどうなのか。濃厚な関係があるかを見極めないと、チラシを打っても反応はない。前に、県大に浜田応援団というのがあった。それを踏まえて、県大もターゲットに入れないと、大学を活かすことになっていない。
芦谷副委員長	大学も一緒にということだと思うが、県大はご存じのとおり来年度に学部再編がり、その中で関係人口論という講義もできると聞いている。浜田市出身で関係人口の活動をしておられる田中輝美氏も准教授にご就任される予定と、要綱にあるのを拝見した。田中氏とも連絡を取り、大学とゼミ活動等を一緒にやりたいと話している。大学とのつながりを大事にしていきたい。
定住関係人口推進課長	次に遣島使はあるが、はまだ虹の大使。こうなってくると対日本人でなく、県大もある、留学生もある。浜田虹の大使もあるが、これらはどうか。
定住関係人口推進課長	ご指摘のとおり虹の大使制度については現在十分に活用できてない。

都市部より遠くなってしまうので、つながりの保ち方、活動の仕方は難しいかと思っている。活用の仕方について考えていきたい。

最近の傾向として、当市にもいる国際交流員が、期間が終わった後に本国に帰らず、東京や大阪に継続して滞在するケースも増えている。関係性を大事にしてご縁が続くようにしたい。

芦谷副委員長

日本遺産石見神楽、北前船、流行りを使わない手はない。全国の神楽ファンという切り口もあると思う。観光交流課とも連携があると思う。ぜひ神楽も含めた市を上げた体勢がないと。足元、現状を見て、どこにターゲットを絞ってやっていくか。お考えを聞きたい。

定住関係人口推進課長

応援団に応援いただくにあたり、まず地域のニーズ、困っていること、手伝ってほしいことをヒアリングして、地域の方の意向に沿った応援をすることが大切だと思っている。北前船、石見神楽含めヒアリングして、どういう手伝いが欲しいかヒアリングをする。

西村委員長

他にあるか。

( 「なし」という声あり )

### (3) 関係人口創出・拡大のための中間支援組織の提案型モデル事業について

西村委員長

執行部から補足説明はあるか。

定住関係人口推進課長

( 以下、資料をもとに説明 )

西村委員長

委員から質疑はあるか。

西川委員

この事業の採択にあたって、市は何か関わったのか。

定住関係人口推進課長

市から浜田応援団ということで、浜田市ではこういう関係人口の事業を予定していることを説明し、モデル事業を通じて浜田応援団の参考になるように、ということで調整等を行った。

西川委員

たまたま予定している事業を紹介したということか。今回この事業に公民館を活用した内容になっているが、具体的に、この事業が始まってから公民館にお願いするのは大変だと思うが、事前に話している公民館はあるか。

定住関係人口推進課長

最初に市内の公民館を対象に、課題のヒアリングアンケートを行い、その結果をもって選んでいくことになるので、どの地域かはまだ決まっていない。

西村委員長

他にあるか。

( 「なし」という声あり )

### (4) 浜田市まちづくり総合交付金制度改正検討委員会について

西村委員長

執行部から補足説明はあるか。

まちづくり推進課長

( 以下、資料をもとに説明 )

西村委員長

委員から質疑はあるか。

永見委員

中間検証を実施し、その都度制度の見直しを行ってきたとあるが、これについて聞きたい。

まちづくり推進課長

まちづくり総合交付金については平成28年度から令和2年度までの5年間の計画で、中間年の平成30年度に一度見直ししているが、その際に基礎部分は見直さず据え置いている。直したのは、課題解決特別事業という別枠事業の上限の引き上げで、当時上限50万だったのを100万円に引き

芦谷副委員長	<p>上げたり、審査方法を修正した。</p> <p>協働のまちづくり推進と公民館コミセン化に関わる。そもそも課題解決特別事業も数年やったところで改善しないし、そういう事業があること自体どうなのかという疑問がある。</p> <p>総合交付金の総額、配分方法、交付手続きについて、地域からの意見を踏まえ、課題があるとお考えか。</p>
まちづくり推進課長	<p>課題解決特別事業は、基礎的配分とは別に地域で独自に計画を立てて話し合いの中で解決課題を挙げて重点的に取り組むための支援なので必要だと考えている。</p> <p>予算総額についてはいろいろな意見をいただいている。配分額の増額を望まれる地域もあるが、検討委員会の中では、事業費1億1千万円の中で配分割合を検討している。</p> <p>手続きについては中間検証の際にも要望があり、できるだけ簡素にするよう意識している。公民館コミュニティセンター化等で、まちづくり推進課とまちづくりセンターの連携をする中で、事務手続き等もスムーズにできるようにしたい。</p>
芦谷副委員長	<p>協働のまちづくり推進会議で出た意見だが、交付金はその時々微妙に変わったり、詳しいことは市役所に聞かないと分らなかつたりする。地域を支援する資金なので、安定的に、誰でも理解できる配分の仕組みを作らないと、私が見た感じでは、どういう意味があつてどうすれば良いか、地域での理解が深まっていない。</p>
まちづくり推進課長	<p>地域の皆には理解が難しいとのことである。町内会なり役員でされるとのことで、年1回だが制度説明会や、記入方法等の説明会を行っている。個別に質問をいただいた地域には伺って説明している。より一層丁寧な対応をしていく。</p>
西村委員長	<p>現状で、まちづくり推進委員会が組織化できて、何らかの形で各自治会や町内会に交付金が流れていくという意味での、組織化できているのは何%程度か。</p>
まちづくり推進課長	<p>地区まちづくり推進委員会が組織化されている割合は、全市的には75%。旧浜田市は6割弱。旧那賀郡は100%である。</p>
西村委員長	<p>1時間経過したので、ここで休憩を取りたい。11時15分再開とする。</p>

[ 11時 06分 休憩 ]

[ 11時 14分 再開 ]

西村委員長	<p>委員会を再開する。</p>
<p><b>(5) 令和2年度運動会及び学習発表会等日程について</b></p>	
西村委員長	<p>執行部から補足説明はあるか。</p>
学校教育課長	<p>( 以下、資料をもとに説明 )</p> <p>今年度はコロナの関係で来賓への案内はなし。</p>
西村委員長	<p>委員から質疑はあるか。</p>
牛尾委員	<p>ある学校の案内状に、父兄の応援も入れ替わりでやると書いてあった。そこまでする必要があるのか。実態と違うのでは。教育委員会が決めたことに各学校が従った形か。</p>

学校教育課長	文部科学省のガイドラインを提示して、それ以上のことを教育委員会から出してはいない。過敏になりすぎてはいけないが、何かあった時にはきちんと追えるように各学校に参加者名簿を作成する等の対応をお願いしている。
芦谷副委員長	益田市との差について。益田市のチームは全選手の名前、体温を測って持ってくる。市ごとの違いで良いのか。
学校教育課長	健康観察等については、毎日、測ってもらっている。益田市のやり方は大変良いと思う。地域事情があるのかもしれない。良い所は見習いたいが、各学校の対応に任せる。
西村委員長	学習発表会の予定が入っていない学校があるが、これは例年やってないのか。やらない理由はコロナ対策なのか。
学校教育課長	斜線が入っている学校が4校ある。三階と松原については今年度からやらない、これはコロナ関係が影響しているところもある。松原小については音楽集会に変えていくことを検討していたため、ちょうどコロナ感染拡大の年と重なったと理解している。石見小と一中については、随分前から。石見小はチームワークフェスティバルや日曜参観に変える形で学習発表会は行っていないと聞いている。一中は合唱コンクールを石央文化ホールでやるため学習発表会はないと聞いている。
西村委員長	他にあるか。 ( 「なし」という声あり )

**(6) 歴史文化保存展示施設専門検討委員会の設置について**

西村委員長	執行部から補足説明はあるか。
文化振興課長	( 以下、資料をもとに説明 )
西村委員長	委員から質疑はあるか。
西川委員	昨日傍聴させてもらった。昨年度までの検討、説明会等で、市の方針が決定されている。今後の議論でも踏まえていただきたい。市民の声を聞く様子が見えない。折に触れて聞いていただきたいし、市民にも情報を発信していただきたい。そういう機会が今のところない。動画配信されるなり、市民向けに、関心が高いことなので情報発信すべきでは。
文化振興課長	杉浦教授も是非浜田に来て、子育て世代の親子から話を聞きたいとおっしゃっておられた。是非市民との交流も計画していただきたい。 議論があるのは分っているが、それを皆に発信して更なる意見をいただき、検討を深めたい。市民への情報発信は力を入れたい。 動画配信については、準備等を考えるとすぐにはお答えできないが、ホームページに記録は公開しようと思っている。どこかで中間報告と最終報告を発信する機会を設けたい。 杉浦教授と中山館長の意見については、我々も宿題をいただいたと思っている。東京からお越しいただける際にはいろんな方面の意見が聞けるよう調整したい。
西村委員長	中山館長が言われたことが今日の新聞記事にも出ているが、整備費等についてはこれから委員に示す予定だった。数字の思い違いがあったかもしれない。これからの検討で数字を示していきたい。 他にあるか。

( 「なし」という声あり )

**(7) その他**

西村委員長

その他にあるか。

( 「なし」という声あり )

それでは、ここで「8月17日の全員協議会へ提出して説明すべきもの」を決定する。まず、執行部の意向を確認したい。

総務課長

本日報告した項目のうち(2)浜田応援団の組織化について、(6)歴史文化保存展示施設専門検討委員会の設置についての2件を全員協議会にて説明させていただきたいと考えている。

西村委員長

ただいま示された執行部の意向のとおりとして良いか。

( 「異議なし」という声あり )

では執行部の意向のとおり決定する。

**2. その他**

西村委員長

執行部から何かあるか。

( 「なし」という声あり )

委員から何かあるか。

( 「なし」という声あり )

では、以上で委員会を終了する。

[ 11 時 32 分 閉議 ]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

総務文教委員長 西村 健 ㊟